

認定講師

ジェルマスター認定各位

日本アイスフラワーアカデミー
事務局



11 月度のお知らせ

11 月の声を聞いてやっと寒さが気になる今日この頃となりました。やはり温暖化の影響があるのでしょうか。

★花嫁さんのブーケがジェルボックスに！

パレスホテル東京店地下 1 階の「オリエンタルフローリスト」様に花嫁さんが直接ブーケを持ち込み「この花をアイスフラワーにしてジェルボックスをつくってください」との依頼が舞い込みました。

JIFA が大急ぎでブーケを受け取り最短でアイスフラワーに加工して、ジェルマスター 1 級認定教室の先生の手によって「ブーケ・ジェルボックス（仮称）」が完成し引き渡されました。



記念すべき「ブーケ・ジェルボックス」の第 1 号です。

10 月には第 2 号の依頼があり、これも短期間で納品されました。



いよいよ「ブーケ・ジェルボックス」がスタートしそうです。

ビジネスチャンス到来の兆しです

来春には正式にブーケ受領からボックス引き渡しまでの流れを決定しますので楽しみにお待ちください。

★今月の花



シクラメン



アストランチア



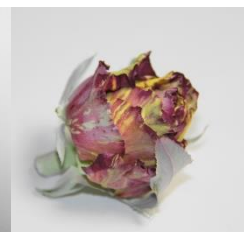
ラベンダー

(小花)



イブニングスター

(小花)



万華鏡

ミニローズ



★制作技術の Q&A

今月より制作技術について質問の多いものから順にお答えします。

Q、気泡を少なくする方法はないでしょうか

- A、
- ・特に冬などはボックスが冷えていますので、ジェルとの温度差によって気泡が出やすくなりますから事前にボックスを温めておきます。
 - ・最初の皮膜処理と仕上げ温度のジェルは90～92℃で処理しますが、そのほかはなるべく低い温度（夏80℃以下～冬83℃くらいまで）でゆっくりと時間をかけて制作をします。
 - ・初めの皮膜処理は角部分から中心へ流し込みます。エンジェルマーク（正面に現れる斑点模様）が付きにくくなります。
 - ・被膜処理をしている間はボックスを傾けながらジェルを動かし、ジェル投入時に生じた気泡を消します。
 - ・花の正面がジェルで埋まるまでは花の上からジェルをかけないように。できるだけ花びらの隙間から中心部分へジェルを流し入れること。
 - ・途中の手直しは一切しないこと。投入した花や副資材はジェルの充填が始まったら触らないこと。
 - ・熱いジェルを入れて花や副資材が沈んだら間違いなくそこには気泡が生じますから要注意です。
 - ・制作が終了したら5時間程はなるべく周囲との温度差が生じないように、冬場などは湯たんぽや電気アンカ、毛布などで温めておきます。

※裏ワザ（今月より2級者にも認めます）

- ・教室の先生にお願いして1級者が使用するハードジェルを少し分けていただき、被膜処理を行う前にアクリルの内側にハードジェルを塗ります。（実際にはハードジェルの油分）
- ・これでアクリル正面には気泡が付きません。側面から見て確認してください。

制作技術に関する相談はいつでも気軽にメールでもお電話でも結構ですのでお寄せください。
お待ちしております。

